

第2節 計画の導入の背景

第1項 超高齢社会の到来

1 日本の高齢化の状況

我が国の高齢化は急速に進展しています。戦後すぐの1950年には約100万人だった日本の75歳以上（後期高齢者）人口は、2005年には1,160万人を超え、約50年間で1,000万人以上増加しました。さらに、戦後の第一次ベビーブーム世代が75歳に到達する2025年には2,160万人を超え、この20年間でさらに1,000万人以上増加すると推計されます。

一方、日本の総人口は少子化等に伴い減少傾向にあることから、総人口に占める高齢者数の割合は相対的に増加していき、2055年には高齢化率（総人口に占める65歳以上の高齢者数の割合）は40%を超え、後期高齢化率（総人口に占める75歳以上の後期高齢者数の割合）が27%になると予想されます。

現在でも日本の高齢化問題は叫ばれていますが、実は、まだ入口に過ぎず、これから本当に深刻な状況を迎えることとなります。

2 群馬県の高齢化の状況

群馬県における総人口は、今後減少すると見込まれる一方、65歳以上の高齢者数は今後も増加していくことが見込まれることから、高齢化率も上昇を続け、2035年には33.9%となり、2005年の20.6%から13.3ポイント上昇すると見込まれます。

また、75歳以上の後期高齢者数は、2025年には高齢者数の過半数を占め、2035年には高齢者数の6割を超えるとともに、後期高齢化率についても20%を超える状況になると見込まれます。

図表1-2 総人口及び高齢者数の将来見通し

（単位：人）

区 分	平成17年 (2005)	平成27年 (2015)	平成37年 (2025)	平成47年 (2035)
総 人 口 (A)	2,024,135	1,961,400	1,845,100	1,699,400
高 齢 者 数 (B)	417,101	537,000	574,700	576,900
うち後期高齢者数	198,508	260,200	340,700	352,400
高 齢 化 率 (B / A)	20.6%	27.4%	31.1%	33.9%

資料：国立社会保障・人口問題研究所「都道府県の将来推計人口」（平成19年5月推計）